

X I -6 小児感染症

3) 溶連菌感染症 (A 群連鎖球菌, Group A Streptococcus, GAS)

- (1) 原因 : A 群連鎖球菌
- (2) 感染経路 :
 - ① 飛沫感染(唾液、鼻汁)、接触感染(膿痂疹)
 - ② 無症状保菌者(健常小児の5~20%)からの伝播はない
- (3) 潜伏期間 : 咽頭炎 2~5 日、膿痂疹 7~10 日
- (4) 症状 : 咽頭炎、扁桃炎、猩紅熱、膿痂疹、丹毒、蜂巣炎、壊死性筋膜炎、劇症型 A 群連鎖球菌感染症
- (5) 診断 :
 - ① 迅速検査 : 咽頭スワブによる多糖体抗原検出。
 - ② 咽頭培養、水疱内容物培養。
 - ③ 血清抗体価測定 : 抗 A 群連鎖球菌抗体価 (ASO (antistreptolysin O)、ASK (antistreptokinase) など) のペア血清による抗体陽転化または 4 倍以上の抗体価上昇。
- (6) 感染可能期間(伝染期間、隔離期間) :
 - ① 咽頭炎 : 抗菌薬開始後 24 時間迄は飛沫感染予防必要。
 - ② 広範な膿痂疹 : 抗菌薬開始後 24 時間迄は接触感染予防必要。
 - ③ 解熱し、全身状態が良好で有れば学校の登校は可。
- (7) 治療 : 抗菌薬投与
- (8) 院内感染予防 :
 - ① 咽頭炎・膿痂疹ともに適正な抗菌薬開始後 24 時間経過すれば伝播しない。その時期までは飛沫感染と接触感染を予防する。
 - ② 飛沫・接触感染予防対策
 - ・ 患者の 1m 以内の作業時はサージカルマスク着用。
 - ・ 集団隔離、または他の患者と 1m 以上離す(複数患者を一室にまとめて収容、可能であれば個室管理)。
 - ・ 患者移送は制限。移送時はマスク着用。
 - ・ 患者に接触時、必要によりガウン・手袋使用。
 - ③ 備品(体温計・血圧計・聴診器)は専用とする。
 - ④ 排菌患者との接触後はうがいや手洗いが重要。
 - ⑤ 退院後 : 汚染部位、器材は消毒用アルコール清拭。
 - ⑥ 職員・介護者の手指を介しての伝搬を防止 : 十分な手洗いとアルコール消毒。
 - ⑦ 職員が罹患した場合は、抗菌薬開始後 24 時間経過後、または解熱後に出勤可能とする。